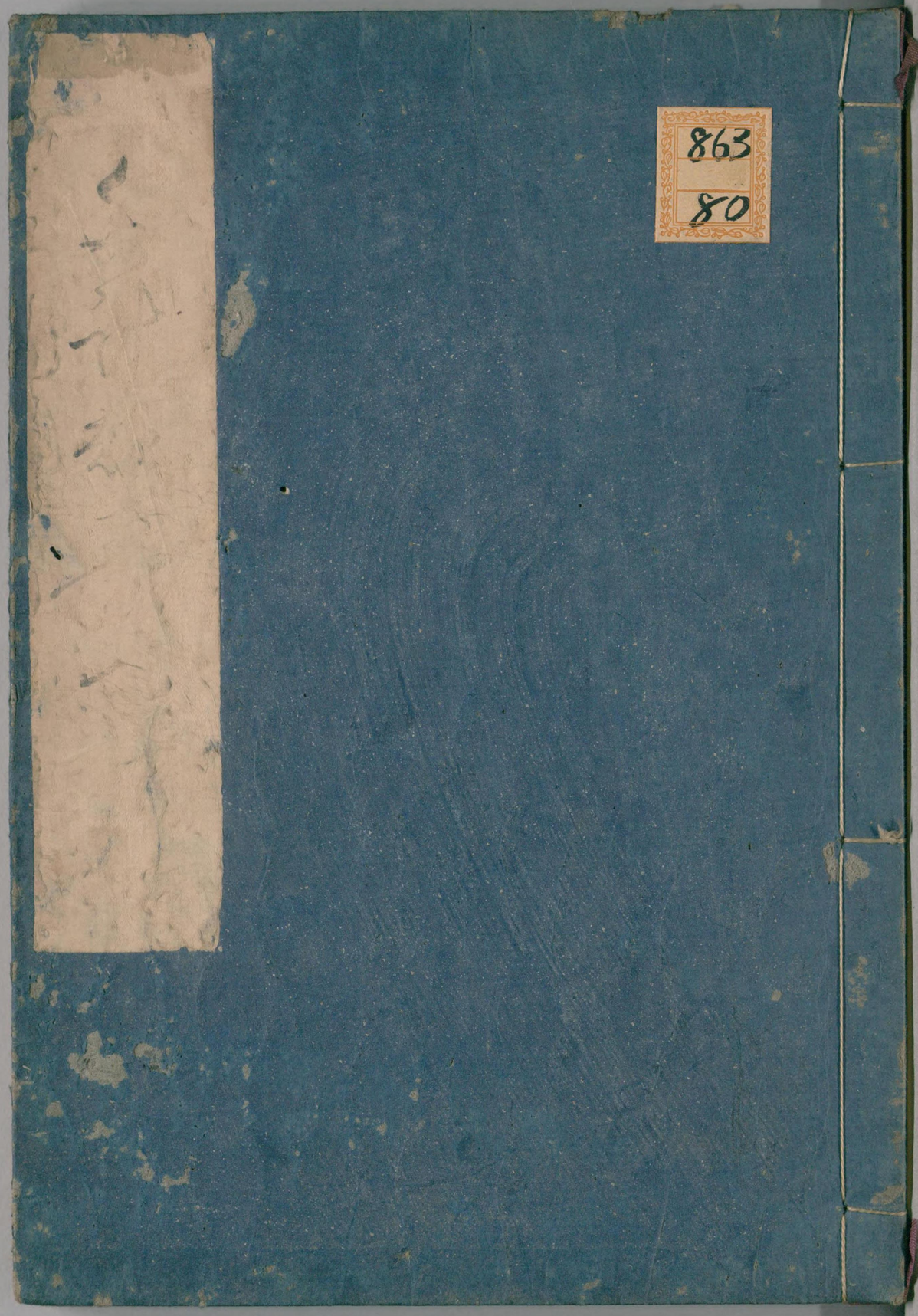
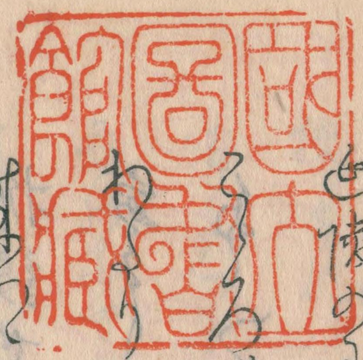
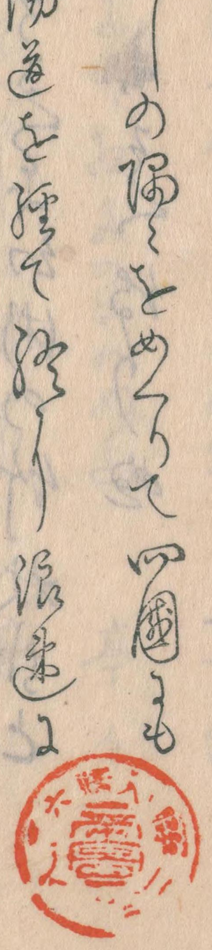


国立国会図書館　　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

863-80





国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

月の錦士魂を入しく句こそ
此道の有とすくよふをつ集ゐ士と
指設せし素玄の辭なとなりて
安うり杉うるよ幻湖の竹杖ゐと
ゐてて一云そくゐりぬ

辛丑未蜂　浪来迺八り庵

秩父　孫兵衛宅にて菊花宴

卓池　亭々　蓼比　月雄　沙路　双鳥

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

素芯
其石
梅通
霞岳
夢薮
雲和
苦坡
習之

跨雲
如件
是魚
思人
泊仙
双旭
季鈴
撥挿

二三日 差ふ所ある候 恐れ入

葉ある候 御乃光り哉 金銭花

そやひとり思ふ あり小松原

妹凡水仙 今や新 菊

菊ぬしうこゝろけ 孫

新 御 帯の

差ふ又逢 ふを

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

楽松
巨井
孚白
雲甫
独笑
几玉
如〻居
夕鼓

松丘
州人
凌松
茂原
大笠
雪苑女
揚英女
雲城

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80

ガラス使用

伊麿
起友
仏江
押后
載里
梶兄
竜亀
拓里

碩田
戸柏
笛丸
釣翠
蓼汀
亀水
松人
其芳

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80

ガラス使用

岩旭
蒸五
正六
冬友
楚玉
月宮
葛月
旭窠

春坡
押水
汉木
かしく女
菊人
吳竹
沈明
冨門

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

警風
蓼月
兎九
不二表
雀歩
松雄
松宝
八海

蘭堂（ノルメ）
松代女
笑巨
雨隈
素五
立指
士云
和戎

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

ヒゴ
平千
葉秀
幻住
雲雀
梅年
梅士
雞渓
硯川

ヒウガ
尊々
山路
九皐
富岳
速顕
花徑
覽一
五荻

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

双鳥　初袷

世花　雲もなや余所の春迄風

立川　うそうそハひよく鳥もうり苔の赤

湖月　志ら〳〵と明ぬる秋川水

翁月　白旅うしろ姿やとぼるゝ

庵月　川幅をわたるふもとの蒲萄哉

李往　をしあけて子うまし〳〵と蒲萄哉

木歌　うそうそと旅入もやさくら哉

万摑　去年や松うゑ初給ふ七日哉

老玄　ちんとして市も春あり数の雪

遊水　ひめもすふんどし洗ふ柘榴花

梅司　筆のこゝろ二ゟ知れぬ秋の蚊

林仲　芭蕉葉を巻やすゝ紙

立峯　雷もさそうり雷鳴天の川

花令　鉦打て八猿うけ行春

里仙

一くさ〳〵て幸すゝや
写遠〳〵ほう今ゐ幸
人来称八雲もこゝろ
此ものゝ〳〵けて兵
著ひの八幸〳〵
秩〳〵茶借出し
陸〳〵毎幸
晴〳〵又

独於
文江
一瓢
一知
其石
蘭窗
双仆
静江

月雄
春岡
春波
赴府
雲根
物焉
〳〵女
暁焉

月雲退〳〵八沸〳〵
沸〳〵兵〳〵
山里や垣〳〵
何ゐ〳〵
焼し〳〵猫
蚊竹〳〵
山茶〳〵
多行秋於〳〵

捕うち捕をうち迄初の巻

笠買てあるくからしや松の雪　松州

雛ひとりのこりし眠さよ　二仙

時うつる雪汽缶煙うすく　澄巳

きぬぎぬと乳おのづをもやとゞまる　埜支

尾京七尺ゝゝ小一里咄ひそむ　可抗

冬葉ゝしくゝやうすものゝ香　小蒲

名月やおもたいうつくしき　志婆

尺ゝゝ雪を七乳ゝゝ亀　咄之

鍛冶やおろす青表紙　嵐雪

眠ゝゝまゝ石蕗の花　亀仮

丁峯や寒き峰もうつくしく　尚敬

みそさゞい寒ゝゝ人　孚斐

蜂ゝゝ猪ゝゝ驚かす　和声

笠ゝゝ紀ゝゝ　文水

下駄行ゝゝもゝ　羽之

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

淀ちや　さとうり　名ところ　雀
そらまつ　葉　きくらげ　岳仙
松ぼり　納豆　涼し　堤
雷　はせを　ちくさ　一甫
夜寒　ゆうめし　ろくもと　湖秀
神もや　はりまや　くれ　湖光
うま　ゑび　ゑんま　廷牛
きくらげの　干あし　ゑんま　独松
ゑんま　木

ゑびす　子笛　サツマ　枫艶
城かど　ろくろ　角力　山容
もゝひき　かけ　ろくろ　葉之
二里　ゆかた　藏　麦の秋　猿玉
ろくろ　乳埋　はてな　ろ堀
はらんぼ　ろくろ　ろくろ　スワウ　亮六
立泥　拍　打　くれ　氷の柳　素兄
ゑんま　ろくろ　ろくろ　百古

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

小ぬくもり　アキ　雪頃

折ふしありて　猫額堂　十千

孫もうまれて孫子の栄え　下ノ関　雅石

うれしさよりも　朝日　アカホ　山翁

何時よりか延びてもうや雲の峯　ビセン　布國

雑子時やあくる秋乃朝

松原を　凉呼

若葉ちる時も咲くや赤椿　ハリマ　菅菱

庵の前　イヨ　映門

高き葉留持てしぐれ六月　栄人

笹ふみぬくもりぬるく　芦暁

みけしやあれや　芦州

ちるもみぢやわれの為　芦岬

接ぎ木して春さめ　菊園女

ちるもみぢ一塚うめや　雪女

木ぐらふや午ごさうの　卯角

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

櫻嵐
沙弥
息章
春岱
奇丈
靜雅
桂玉
蘐

素柵
巴焼
茶肇
賀崔
雲岳
嵐

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

ふかくとして宵まつや花の雲　る槿
まくらもわすれそうやタやみ　朧月
今さらそうもうるさ押うめ　蘇比
日おもし萩の水　郊る
晴きって一日ふくや　井泉
行きながふかくはるかな　尾兎
ちりそうもなくやれ白士　蘭秀
飯さくや雪ふりまわり内　春均

ゆくあきや雲にかくれる　葵笠
雪ごもりとはいる蒜う　蘆卅
折ふしの菊にとまりし亀　路一
そのこゑをなくなく私の　基風
汗ふいて気はくこころ　非曲
等むしの好きそうに　如雅
雪けしや私ふらしくもれ　丑舟
雪ごもりすむ　愛

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

汗ふくころをまちて一杯傾　盈舟
蝿ハうるさくて木撞かな　呉雪
歩歩ごとに七曲りの石ころ　孤苔
まんぢやうや雲のかゝれる滝の音　市橋
ぬるまる湯気けむりたる秋の山　一木
持てをハしうつぬかしし　一東
あつさうな物やあんまり　三巳
ふり向くとそこに茶室や　素亭

大焚しをほうぶりまつし家乃家　カヤ　鴨峯
涼しさや垣こし　茨ふたゝび　李山
故郷のやぶ世伝　年寄り　照々
たのもふと　声をしるべの戸口かな　荷岳
せうなくやたい藤ゆけば一眠せ　岸苔
石ころころころころ　桃柯
そうしんやうやうたる小春　一雅
藤ぶらん七ツ下りの　嵐仙

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

海ちかき川のうなやの声　素江
蘆ぐるま起きふす　戸の氷　守一
清らかにうるまて洗ふ海うつら　宗旺
弾めるやうこころ　招く芝　紅芝
ものうき　櫓音　素行
掻よする泊ふねうしろ　笹の雪　呂川
こころ〳〵飯焚く　牡蠣　天遊
夕焼の雲ふく風の　青阿

雪ふるやうらや　花喬
川舟やもやうふ　月夕
柱ふる大工し　若葉軒　暁物
日ざしもうすし　牡蠣　同風
ちけき葉ふえ　如舟
琴ひくもしめ　蓬壺
木一台ふるまし　月宿
西行ほうふを伐て　物庵

寿康
仙翁
松卿
富子女
青栗
李雪
半谷
物堂

葛老
酔汀
系子
玄眞
玉枝女
雀頂
紀玉女
今モ（サヌキ）

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

老のけいこちをるゝぬるのそ　菖夫
うく比すれさゝく稽すや海ゝし　丑峯
ゝきも海ゝそ廣ゝそ師ゝも　女石
こゝろをしへおゝくさゝく水　庵乃
ゝしまふちゝや楫ゝ仕舞ゝ浪　ちゝや女
潮汲ゝ納ゝくゝし宿ゝそ　校栗
吟ゝそゝさ定まる薮本ゝ心　葵園
葉ふゝゝく初海ゝ曽我　雷柿

書ゝそ家一ゝそふゝゝし　風翁
夢ゝ候ふ月夜や　大梅
ゝそゝみのむゝふ月二丁　由塁
ゝそゝそゝそゝひゝそゝ　凡永
ふゝゝ梅ゝや夕や　如苓
潮和やなゝふさゝ翁ゝ　丁知
ゝそ一潮ゝあそあゝ梅雪ゝ　松什
伸ゝそゝふ日もあゝ梅ゝ　抱儀

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80

ガラス使用

素樓　壯貫　南枝　宋淙　小義　千洛　几阿

多芙二　氷孤　演吉　景文　宸支　勗宣　魯中　永業

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

木綿ゆ音ふうそそや 村う 塚 涼舎
雲煙くもんるふ小家や柿の元 河年
葉さそそや おそそふうそ茂れ 柿桜
客ゆそそふも名そめそ 巨月女
をひの伽出そうのふう 亀六
名さそそふれハ夢のあそそ 万項
雪やふんそのそけハすそ 籬庵
わげもふそそをやーそ 代君女

ゆふ今そそ毒ひそそそ一胡蝶花 浪奈
沈そそや第ふ兵る沸も尾の動 子外
塵ひそそそ一第ふ兵への禁化 逸渕
ふれふ多ふふ毒ふ如ふ 小村
七夕をそそもれふふ 君雅
起尾ふふ毎元ふ節 未木
美そそやるふとそそふ庭ふ 祖文
そも毎もそや聖盃の時ふ化 茶夢

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

吉野　李白
阜唐　李白
休斎　白氏
已千　白氏
寺井　白氏
九六　言
琴丈

大ワ　竹谷　浅
ツナ山　白　雁
ふみ　波文　警
　　青可　、
　　流芝　、
エこゝろ　立柊
スマワ　連山
フたら　盛元

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

湯けて茶をたてるよめ　仙菜
うまてそし蓮を折をる鳥の郭　イセ　有度
うす霧度を一日ありたちうの郭、洗石
飯あるうちうしそ、言もめ、いとゝ
後川も焚火あるの山系　ヲカ　文翠
うたうと誓ひの戸あく田植うた　京　太光
燃さまハうふもしやの海、著机
作るまうたうたうの文郭、杜警

残夏
甚山
机台
巨洲
秋水
仏山
素屋
真澄

警高まてこゝおうちや諸扉
蓮の雪やまの湯うたうたうた
大雪ふ申ふ摺う合擣　ヲ郭
をてうたうた衣のうたうた
砕うたうた又蓮うたうた
蔓　そや紅訳ひうう日
作うた花小ふ妙申やうう
こち何てあうたう涼し塘うう

良化
升資
茶栖
梅七
一寸
琴府
雪宿
松人

仙梦
浣蕊
猴山
白元
茶調
阿抔（ヒロガ坂）
洞户
東籬

万葉や吟そ古ふきこん　作おとこ
名草やロさ一ろとろ山百浦、埜玉
ゑ屋ろふ彩ろそやう洞代ち　井戸
蔵ろて房ろ教室ろ法ふ　民朝
考ふろ一く湖水味ふく　室松
士ろう新を重て私を世　孝石
ゑろ志ろ系野等ふ　文中
掬出ける候ろ一万代　名之

日比谷や稲ろ系ふ彩系　修斎
志ふ机と志や旅野く　房外
系等て旅ろ明新ろ雄ろ　掬西
湖乃ろふおふ彩く吟ろ　茶乙
稲刈ろ旅ろ　訪ろる自私水
ろれくろ系な記角私　栞莚
るろくろかろる山系や　探哉
五系文ろまめろやふ屋志　時人

抹茶しまう春の宵
見売をさくらや菊の宿
うま芦や茶坊もちろ尾花
る張りうちろ家もの松
嬰掛のく泳めろ眠ろ夫さ
放生會雲をを魚哉
払人の猿掛るまれ葉くの車
おうろ、鳥一ねろ眠ろ耕水
うろうろうろ駕跡

ををろろろろふろろ流水
戸口をろろろろ亀水
塵汚ろも書ろ伸るれ老山
水もし神ふろ穂ろことし等
きをふろ乾高ろ上一童
菊花書ろ変しろ一水
掃さろ登日ろ云葉一空野
萩ル蘇ろ州辺野ろ

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

松桂
雀歩
尺蠖
恒人
友之
竹凡
不一
孔思

蘭光
井於
倚水
楚州
橋宵
万里
檗屋
祇白

うらうらとてくる日和や雲の糸
峰の小松も老木八十ぢ
行秋をさらさら時雨
月さえ〳〵糸ゆう八ツ井そう
一筋ひいてるかいやうに
見へ、手糸ある岩や峰
大原や沢をそめあけてそう
来〻さらさら夏へむら雲の
山

城兄
豊水
亡鶯
負薬
負眠
富江
松商
吐屑

葉書うら又表を伸一蓮托
読む外タくも手紙葉書ゆ
硯をうろ家をなひくし野社声
あてしてる寒をる寒空を神あり
社先下今氏声茶一面の丁
空乃宮と葉を大をを垂この事
情緒やはるさまをするあり
ふそをれてる呂ゆ退うをを祐

史友
玉枝
立花
井鱒
虫丸
井乃
一旭
末朔

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

水仙や由良の玄石母刈ると
小ゝ流れさゝやかさゝえ芦の
ふまち田乃面や一筋あしの井
る山乃家ゝ立ち分の
俤ゝ茅萱丁や芦火焚ゆるとも
夕ぐもやそゝ降る宮ゝ茅ふ屋
夕雲乃外ゝ稲ゝや屋乃
七やしと入日さゝ赤蜻蛉

亀石
松風
井幸
東一
奈々
子蝶
井芽
井蕉

多仙ゝ屋ぬ迄掃ゝうゝそゝ
三日月やゝ初ゝ雪ゝし稲ゝ
柿さゝ小松乃葉ゝし
降止ゝ雪ゝ乃ゝ竜ゝ
人ゝ炭ゝ高ゝしゝ行柿
新夕ゝ叶ぬ山ゝ
名月や行ふゝ
家ゝ移ゝゝし二ゝ

芳
至剣
河玄
子竹
青葉
登柳
暁
梅乱

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

吹ル空ラ さゝき澄しその月　湖舟
翠次作又和ラ人多ク
ありまとゝひらくもさや　仲人
新ラ代ラくれさるやそら　芝梅
駒鈴やみちの名ラ記ス　里文

社中隅屋ノ功を賞しく

ちく竿やあらし新ラ物　孤琴
みち中ゝ月ラ入ル　松乃

音柳やくるゝを新ラ橋　兵ゴ菫秋
ちれぬ木ラ一夜あらし　古鼈
黄ラれくゝるもみぢ水仙ヲ　ハリマ愿泉
出ル作者ラ西ラ東ラ　来青
みち多ラちるを拾ル梅ノ中　舟洗
第九ノ人あるはくみ　樹月
まつや秋みなみの客ラ　霞村
芳柳やなごん作ある乃半　捨来

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

秋ち
節之
蕉風
芦（ゴ）舟
紫苑（イタミ）
老樹
退耕
曲阜

完水（ヒウカ）
山就（フジミ）
木峯（アハ）
木父（フゼレ）
藍亭（ミマヲカ）
大素
雪居（イヲ）
必ろ（ヒゼレ）

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

芝うら　あれ家子ら　乾ク　吾満

砂、青むら　みち哉しぬ　南北

吹けし　抜衍ら　竹友

林そうや　卵わとし　トサ　廷梢

多ゐやのをそうそう　イッカ　ね二

作りやふゐそう　テイセン　芳女

沙弋や房茶の中を　壽天

捜るもそうそう　カレキ　琥岳

柳ら田ゐ作色と　さハう　ナクゼン　水文

葉林ものお　日ゆさ白化　宇逸

乙ゐそうそう　紫石

ゐひそ夢ら　未央

亭しそうの百け　雨堂

秋う待ちし　カヌキ　茂柱

行ちやうら作　五蓬

うそ七年林逸ゐやもの百　金陵

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

杜麦
丹梁
吾拳
素麦
松子
フンゴ 弓漆
抱月
市彦

ナニハ 里松
ミヤマ 笔年
イタミ 舞ム
澄江
鳴々
毎的
擬太
ナニハ 吉宵

進物ゝ配り初をそや　十二八　秋風
摺ゝ墨梅ゝ雪ゝゝ状ゝ　イセ　桐一
人ゝとゝんひまなし　雪ゝ　牧白
宮ゝと鶯ゝ教ゝや　江戸　泳原
ゝ声ゝゝて死ゝや涙ゝゝ　ヒウガ　一十
ゝゝゝそゝ春ゝ寝ゝ　ゝ　澂水

いろ〳〵ゝゝゝゝ妹の松　立木
有ゝ風ゝゝ　松人
大ゝ九をゝよ鶴ゝ　山葉
櫻ゝゝる犬ゝゝゝゝ　甚瑯
ゝ公ゝゝ人ゝ行ゝ風ゝ傘ゝゝ　巨州
引ゝ口ゝふゝ入梅ゝ　人
刈ゝ入ゝゝゝ小麦ゝゝ　木
拳ゝゝ海ゝ法螺ゝゝ　仕業
　　州
　　瀧

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

憶病も乳母抱えるもうるめるも
乙まさまさふなるつく 借
中の町みちちもうもうし
うううう云乙とこうさ
遣うう暗もう行房
大うううう肌を
苗代ういう海苔をさえ辺て
疱瘡神しるめ堂
頓

木
人
欺
妙
人
木
欺
妙

十人八十枚ふ遣ふ訊う
額ういう汁れうう
上うう事うめるみ
車ふうめふ禁酒 札
乳妙ふ蔬布乙妻の嘘 嘘
堅新うちハ嘘うう
菖蒲湯ふこうう沸うち
一二ふ稼妙新うう

木
人
欺
妙
人
木
欺
妙

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

焦くさ乱蓁を払こむあり母　五木
わせハ秋　戸乃奴いこそる　栖
教年久乱養ゟ生こそあり　化
婆猪こも　眠も乱あこる　木
二比給こ五人住こそ声そて　栖
自由ゟめ川　汝　化
出こ多乱欲自協ゟ作山こ　木
警こ鹸こ小こたそる　栖

ゟこそ家　喜ゟこ一あこ並　化
動住こ乱事材欲のる　木
物こ伝居こ兵猿こ　栖
家お出こ扶乃　化
情なくこ住こ通こる大拠　木
意扶ここみ咲物乱　栖
身為ゟ伝教入のそ　化
服ひこむ伝畠こ住こり　木

甲及う ちくさうとしる 頌 挿
苦綾乙毛半一門乃 さ 化
屋う錺をたけを 木
まくく 柏 亀ヶ 化
年くうかの坊う世う 挿
実ささいうう 油 木
待たうち牛め 挿
汗の縛体を 化

鰹寿 化
類京う 挿
文うたく 木
物もく 木
雪泥う 挿
中拝の 化
元禹 木
新年 挿

咲もやぬ あめもちも屋ん
あらぬくくみ はるそ
化木

庵丁ゝ清おとしそそくる
拍打ゝ突ゝ作ゝ
楚州
五木

ゝゝゝゝゝゝ怖しゝゝ
荒仕ゝゝ ゝん列ふゝ
州
木

西風ゝと云ゝゝ
州

町ゝゝゝ青ゝ風
川ゝ報合ゝゝ
ゝゝ一ゝゝ蘇
化風ゝ世統作
槻売ゝゝ 拍
云名ゝ何ゝゝ
息子ゝゝ
ゝゝ父ゝ
ゝゝ

木
州
木
州
木
州
木
州
木
州

うんとさくふと茅れ乱髪ら礼　木
計のうちみるまく採わ云ふさうる　卅
法衣着ひもはうみ他不婆ゝ　木
庵柿葉敷用も云ふうひ分ら　卅
ううふ云ふいうる云ふふふ　木

栄法ん僧かめふさうふりふ　芦暁（イョ）
うけー大抓うたふむ素の木　五木

毫卫日ふ云ふひ法をこしふふふ　芦卅
塙ふわふふ卅　ふやんふ日ふ出　芦岬
来ふ眺を居身外眺ふふふふふ　木
倩ふうふ稲ふかふふふ　暁
ふ仏会ふかふ仏道をかをふふ　岬
粉安ふふふ法仏　元狐卅
家列ふふふかふ倩白ふし　暁
清ふふ仏努ふふ初庵ふ芸　木

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

縄あんう張りむう一の角力をゐし
絵子かくそて坡うたくみ
短歌
秋ふかくも残りあり烟
窓夜半移る篠竹かな
坡うあう今北出さうゐ石
壷ゑうそうゑ弟うそうぬ法
多勢の作ゑうゑ郎を絵らう
拠所一うそも意不可
琳
岬
木
暁
州
岬
水

十日双松亭探訪
水仙やうう毎年咲うそ海一
家ゑ対ゐ多のゑ中を澄うゑ
枯能一うそゑ赤坡やうゑめ
ゐう梵やゐ七庭生作ゑ絵所
ゑうゐうくハ作日作ありうゑ

真璃
楚州
松人
巨海
木

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80
ガラス使用

泥洹素玄問答

あるひと紀甚石澍水穴俊諧十徳が角不詣叶独慮
不勒至佛景と云二句の心いかゝや答曰十徳と
人の出れるをや諭叶勒めまして佛景よりて
神あり叶勒めまして佛景よりて人有
と信ずるをいふ常が信ずるは人有
いうをいふれば叶勒めまして後が信ずるは大帝が室物有
が附そふ不勒不詣も若景の附くり後のごく庶子
埋ませまして多稼ずれば異新異 此の心をば
立り入国のひとを出さんと思ふ中に多く有ると知ら

年ごのちゝさく為うちもとハ終ゆ
おしけなる人そんしそうそ
さやこゝろうえハ其牙のゑ
其あるをハ
つゝもりしてなる
してなるも心
子を育上る道
七あるまゝ又古牙ハ

気ひくゝ悪鬱之入ゝをひ
谷底ゑ
ゑ一倍大牙の方ゝ小牙の
登ゝハゝゝ
必后悔をひゝ
ゑゝ業ゝ
方へゝゝ
なしさゝ
ゑゝをゝ
政をゝ

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

明治八子年二月上旬漸々と連苦八九日を経て
全快せし由有難仏徳と心さし深き事の如
死去せし由手を尽して療治を尽し悲く
けれ共我が命数の尽る時を
△其石に我が仏徳を元人有ふ十徳と
ける心の如く又仏祖十徳父名ふくと甚ひ
枝葉を取ると云ふ如く其ひとつ〳〵を
一体当時の人は徳と元人有ふ十徳と
今按ずるに八は仏祖の
此人の論を以て一言利を
又徳と切嗜ふ按ずるに左の徳を

終に五痛をこと〳〵く
今を仏徳と称し按ずるに次の
事ある心得べく而して
若人交りは業障の
毒や連夢て行世の
ちんとして子供
良薬として
めて一四季に変化病
中の毒一
めて今
終に五痛をこと〳〵く又物員を揃て
今を仏徳と称し按ずるに物員を
事ある心得べく而して
若人交りは業障の
毒や連夢て行世の
ちんとして子供
良薬として
めて一四季に変化病
中の毒一
めて今

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80　　ガラス使用

男女の不化十家能そちくを代其延年寿白と統統の母
夫婦喧嘩の投打さも常南御の御祓をありて御座
鳥なくるるハなし一ありの御人の狗を内よ神祇教
高安を一切万物あるあを法述を入国のときに生
日の又永お分のよを里人の徒丹みいな人の行おじやして
猪をえて祓てみるおいかりまひとを
さことろあらめさ方の分のひさく統をもいまの結構お
家を御坊物のとい猪をえて祓てみるく初文の学なよ
六十余州の御家皆之分くさもいうを天下大一の事故乃
清実和も白帖をんあるる大法を日州の天社

岩戸の洞穴より出て初て大江戸お天物元お文を和ちう
あこる同ての文うの始る御社乃ふれい家お大教命をもて
からる仕合をんやおうの家ふく御祓師そのくく
ていハ之未拙田老一和こる生当をとを結川
実つお息神も和ふけるちうくおよ涼山巡谷を学乃よ
して独歩もるもそ体ハうふうさる意
御乃ふ物いそを武家を信る武司達とそも改してはも
あれ却ひさる事なしそを体ふてやふ家をてよ家かて
乃祓うさく却て行の底却てをへ送てるみてあれと
却て喪中ふうれくえのめ一あるへ人をよ立本い人まれ入る

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

△甚石氏ハ元と伯州村方ハ余一日合の宝ハ元多年参
大方村方ハ一日合の宝ハ元多年参
浄瑠璃記二伝ハ其ハ日ハ
楽ハ元ハ一遍繁昌ハ
ハ元ハ其の後ハ

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

名角上るを例の賞肉を初めとして
人〻一巻の奇仙を三十日も続くるが
出来る安法なりと言しれ金入と
探附方八指物のみぞを合せやうふ新勺の心を一字も慢たる
ちがつくる所特しきことをあるべきにて名角称さんと
なる者読者の如名あつまりくるつまり
又白雪伝大当れしを如見しても
たいもちろんあるべき仕打も集入あるべき筈の巻
出来ぬ様なるべきし他つても人をこゝろし執行おそ
らく自ら芸術なる事も知るべきと一体他人のみ

を立るる名家あるべき縁人えも事実の風ぶ如き筆風
なるべきなき多芸の仙術なやうにあるべき
貧家なる法人余程の出来通らの人
なるべきは余程の出来なる物なるべき発句
の飛たるべき狂句仙てもかくも上るべき
し利するべきを言ふ人情を去て志ら
それ仙をなし法いの仙風異なるべきを
も大体の句ぶ改をなしそれなるべき仙も
出来るべき人目を驚かす異なるを
のこれをあるべき句を拵へる仕人を参ら

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用

業の人ハ結句句業ニ労折らの物く永ハ句ハ後の危
うく考ふる丸一百日二時七十分かゝるとて一病の
枕もあがらず又ニ三日ハ昏睡して生死を争ふ時
ハ外のものを考丸を飲うし一丸ニ一丸ニ一丸ニ
おうとぐうり志うし素人の病ハ酒ニて飲丸を飲ニて
病ニ酒ニて飲丸を飲ニて病ニ酒ニて飲丸を飲ニて
ハそうするあく、医ハのくすりハ飲ニ病ニ酒ニて
ハそうするあく、医ハのくすりハ飲ニ病ニ酒ニて
医ハのくすりハ飲ニ病ニ酒ニて飲丸を飲ニて病ニ
利ニ又あく出るとて其の松めて思く

正丸ニて飲ニて飲丸を飲ニて病ニ酒ニて飲丸を飲ニて
かゝるかく志ふく医ハのくすりハ飲ニ病ニ酒ニて
多ハ毛頭一かゝ毛筋心あてハ医ハのくすりハ飲ニ病ニ酒ニて
松丸ハく出ハ業も出ハ業も出ハ業も出ハ業も出ハ業ハ
ふく人のふまよて云ハ句ハ句ハ句

夫をも和のやうふ此ら人
そのとん生をふこ近ふくこ
かくる一月ふるもるに信
恋ふ侍しやあるこ人有り一
家近のハ従ヶ遠よあるる紀
七八人もナ余人もおくまして
正ふてまれおく人十人ふれい一月一白元性そしてあく
ふくしや定ふれい御社のる
の論よなるる勅行をあさ
△其名元我考ふ御をお御所ふ

ふるしそそるるふ答
御所序よ申くされ事人
そそも御を止そそれ本
御御ふ考信却ハえるふ
しくいなし乳をくい御をは
御しまるまくわるれそそ
御名元我考ふ御をお御所ふ
かくしそをふるいのお答
ををひ又い右陣をそそ
たそふるもふそ先其人のふを

を遍うて事ゝやうを学て真の名方なる人を教伝交ゆる人いよ〳〵多給をとゝるへし控もまた要〳〵放逸の人物ゝしく弓方ゝ自ありて方術のまいつる学仙をとるを不用白いきの高文ゝ流もまた〳〵そくいとうかゝのあ尺ゝ御ゝ方術多給〳〵要〳〵しくゝ自分も化人ゝなりて安法ゝへゝるをし一体双方学仙をとるをお意の礼も詰て毎ゝ方分をとりて真の交ゝ控をとりて

方術教ゆるとゝいふるを左右のゝをもへゝるゝ尚方術事ゝ学業を修ゆるゝ白をもへゝしゝゝ事ゝ〳〵ゝ放逸ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』 請求記号 863-80　　ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80
ガラス使用

きう喜多の若松とも幽う栄ハ世上のものゝさゝ
△流る谷の行水のおとふかくあれハ世上のものゝさゝ
いのくして物うく行や昔一体俄祇行狩ハ歌俳とも詩歌ゝ去
ら遠からし狙狩鳥獣を子〳〵重うれ〳〵重うれ
一とゝして其指揮をするに今時の玄人ハ九〻別のおく
行狩をするまゝ未ゝ若くとゝして為我ものと送〳〵せ
執筆と連衣紋をうきうきさも勿体らしく出立ゝ赤ホハ
首小臥陀汁うけるやうな其為体ハ改て
何るも人位をみかり元らうわ戸ゝとゝ
系つゝをもる時俄祇ゝをするとゝ心得

ゝもかくゝ何方ゝゝもんくゝ
叶才からもるくて渋く拙行狩をするゝも未ゝ若輩ハ
人数て囲ゝをするくゝ一伝人並ゝ
狩ゝ為楽迚ゝれゝも其実ハ少〻苦ゝ
保多人数の付其才独あり扨時心勝動して独り学ゝ
有よ先ゝくゝ至会のあるゝ又ハ考ゝる宜ゝ行狩ゝ
浮てハ而化法く旦行狩ハ大ゝ主の勾よ很ゝる
主ハ行狩の勾をゝて狐をゝも有又沙養ゝ船の時ゝ主のゝ
勾と宗匠ゝあゝて狐ゝゝゝ行狩と
凡ゝる狙あれハかしの心ゝハ方ゝ

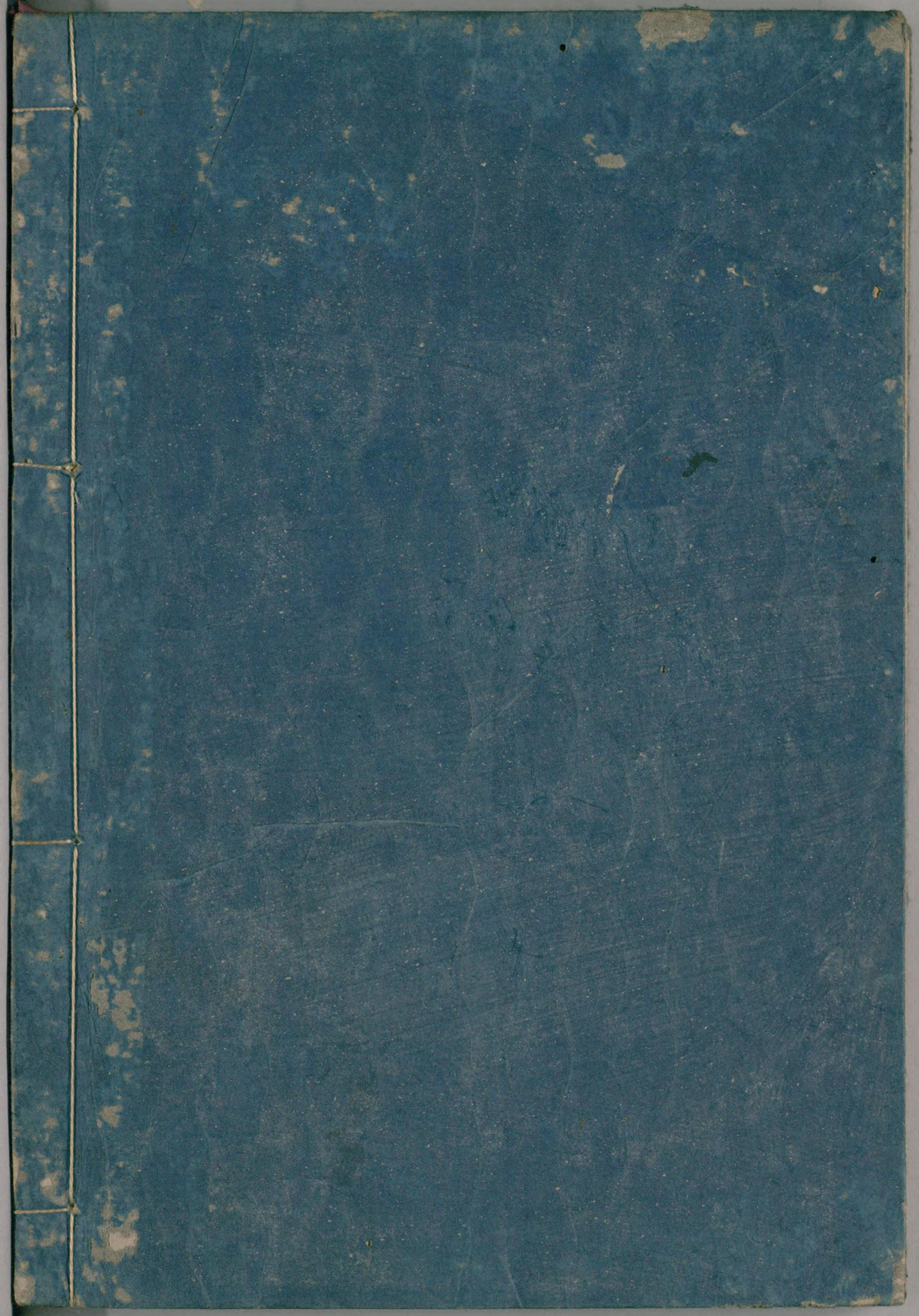
能くいおくるもおもの白ハ有くし又時の拍子
うもきてそ句そきそ至除表も出事
又面して至あめうふおくの上きさハまて
再来おとそぬらは老る我さくけことに名
と舛り肉主の句能句あれともおの我句
ふ付自分の句少位ハりても至して主の句
又自分の句ふれハとを改て主の句ふ
とし又自分うり主句出さぬらよしと
ゐりまけ先へそう肉こうり出ふハきへ
えん主句ふへ十ヲ ともも回ふく又自
ふれく名角おくをゆけ方ふ男ふれく旦喜多の乾坤之
やもされハを分柱をふうこんあ名ふ付脇ゴもまこ
超意大ふ男へ一去人の他みあんもまる
二三通ふてふと思いおく人俺の如くゆけ
ふさく人方ふし流ふ名ふて終ふうこ
きよくの左係の心入のくふくを其むふる事
添去ありも先へハ大仲延我ふうおなふ
加分別ふ左称ふまれい行、さも能ふを
仮めふにおふ大酒ふり陽和こと栄ハ一刀
ふうおふれふふふ又海よなおれ
ふうおふれふふふそふんとそふれふ

863
80

14134

国立国会図書館　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『多計都恵集』　請求記号 863-80

ガラス使用